

京都新聞 歴史シリーズ

# 歴史に刻まれた 京のみち

企画制作 京都新聞G.O.

平安建都以来、多くの人々が行き交い、物資とともに人々の思いも運び続ける京の道。過ぎし昔の物語を語り、現在の京都を支え、未来へと続く道だ。今回は松ヶ崎(左京区)をたどる。

## 松ヶ崎百人衆

松ヶ崎の地名は小高い山々に囲まれ、松林があったからだという。「源氏物語」の夕霧にも松ヶ崎の地名が見られる。高野川の西、深泥池の東南にあり、宝ヶ池を取り巻く松ヶ崎丘陵とその麓の低地をさす。

山延暦寺に近く、昔から天台宗の影響が大きかったが、1306(徳治元年)夢でお告げを受けた美眼和尚が日像上人を招いて講話を行ったところ、村人全員が日蓮宗に改宗した。1536(天文5)年、日蓮宗の台頭に危機感を持った延暦寺の宗徒が、日蓮宗を武力で排斥する「天文法華の乱」が起こる。松ヶ崎城が襲撃され、松ヶ崎村の集落は焼き打ちにされたと伝わる。

## 松ヶ崎題目踊り

8月15、16日の夜、涌泉寺境内で「松ヶ崎題目踊り」が行われる。村人全員が日蓮宗に改宗したと伝わる。



涌泉寺

松ヶ崎の歴史は古く、桓武天皇の時代に皇室の米作りをさかため、平城京奈良から100軒の農家を松ヶ崎に移住させた松ヶ崎百人衆が起源といわれる。稲作をはじめ裏作に変などを作る、豊かな土地は「松ヶ崎定法」で守られていた。厳しく分家が禁じられたため、江戸時代はほとんど人口の変動がなかった。

平安和名村に見えるが、南北朝・戦国時代に松ヶ崎は4度も焼失している。比較

示した喜びをうたい踊ったのが始まりとされ、京都市無形民俗文化財に指定されている。日本最古の盆踊りともいわれる。

16日の夜、京都五山の送り火が行われる。松ヶ崎の夜空に「妙」法」の文字が浮かぶ。虎の背山の西山の「妙」は村人が改宗したこ



松ヶ崎神社

とを喜んで日像上人が、江戸時代になって日長上人が東山に「法」の字を書いたとされる。

妙円寺の創建は1616(元和2)年。日蓮宗の僧侶の学校「松ヶ崎檀林」の校長・日葉上人が、京都の表鬼門にあたるこの地に、開仏の大黒天を安置して持いたといわれる。都七福神の一つに数えられ、松ヶ崎大黒天として親しまれている。

## 宝が池公園と国際会館

高野川上流には高野修学院(一乗寺、田中などの村があったため、取下水口である井堰を巡って、水争いが絶えなかった。そのため、江戸時代中期に、かんがい用ため池として宝ヶ池が造られた。

1966(昭和41)年、国立京都国際会館の開設に伴い、宝が池公園の施設整備が進み、現在は市民憩いの場となっている。建築家・大谷幸夫氏の設



国立京都国際会館

先端の情報が集まり、国際会議の中心地として重要な役割を担っている。

計による同館は伝統的な合掌造りの様式と現代建築を融合したとされる。最

1958(昭和33)年に廃止された宝ヶ池競輪場跡地を利用し、64(昭和39)年、宝が池公園「子どもの楽園」に生まれ変わる。<1964(昭和39)年5月撮影>

北山通 <1966(昭和41)年撮影>



穏やかな自然に癒やされるー松ヶ崎

